

新聞購読をやめてから十年以上は経っている。兄夫婦は変化を嫌うタイプなのか律儀に継続し、パソコンやケータイとは縁遠い。新聞の魅力はなにかと義姉に尋ねたら、テレビ番組表と折込チラシと答えたのには仰天した。番組表はテレビでも見られるし、チラシは郵便受けにごっそり放り込まれるのに。しかも心惹かれるチラシは皆無でどれもこれもゴミ箱直行だ。

ところがこの夏に入っていたチラシには「野菜づくりを始めよう！ 農作業で心も体も健康に！」とあり、見学会を開催中だった。

昔から土いじりは好きで、ベランダでちまちまやっていたところ、防水工事の業者に「ベランダに物を置くと防水の寿命が縮まる」と脅されて殆どの鉢を撤去したのだ。土いじりには虫がつきものなのに私が触れるのは蟻だけ、蝶もトンボも駄目、芋虫には身の毛がよだつ。それでも大地での栽培の魅力には逆らえず、見学会を申し込んだ。

見学会の場所はスーパーの入っている五階建てビルの屋上で、先着予約制と宣う割にはがら空きで私だけ。「あれ？」と思いつつも担当者が三人も待ち構えているので逃げることもできない。

まずは利点が縷々述べられる。農園に通えない日は係員が代行、タネも苗も会社が配布（えっ？）、乾燥に強い特別プランター（ええっ！）、屋上だから日当たり抜群で靴が泥で汚れない（えええっ!!）。なあんだ、大地じゃないのね、これじゃウチのベランダと同じだし、通う手間だけ余分じゃないか。

最後に料金説明。プランター一個、入会金二万一千円、初年度総額は十五万五千円、その他オプショナルサービスは別途。いったいどんな人が申し込むのかと半ば呆れながら帰った。

数週間後、息子が久々にやってきて、お土産だよとピーマンや小松菜を差し出した。

「コレどうしたの？」

「近所の畑を借りて自分たちで無農薬栽培してるんだ」

「へへ、まさか十五万円のじゃないよね」

「えっ、どうして知ってるの？」

やれやれ。でも向こうは同じ経営者だけど畑が広いというからずっとマシかな。